

〔陰德太平記 七十四〕吉川廣家陷岩石城事

翌二十六日、○天正十年六月壹岐守於小倉廣家ニ饗膳ヲ被勸ケルニ、旨酒酣、興熟シテ後、壹州、廣家ニ向、先年某甲ガ氏、森ノ字ヲ改、毛利ニ仕候シ事、偏ニ廣家御吹舉ニ依テ、輝元、御許容候ツル、此御恩禮、謝センニ難、悉言端候、

〔藩翰譜九下毛利〕伊勢守藤原高政は、豊臣太閤の家人なり、初め森勘八郎とぞ申ける、太閤未だ筑前守にて、毛利右馬守輝元と戦ひ、天文十年六月、羽柴毛利中直りして、互に人質を取替さる、毛利は叔父の藤四郎元綱に、桂民部大輔付て出しければ、秀吉は此高政が兄弟をぞ出されける、高政が弟兵橋某と云、輝元高政兄弟に向て、兩家の好みを合せたる始に、和君兄弟我が許に來れるに、和君等が名字と、輝元が名字と、唱ふる所の同きこそ怪しけれ、然るべくは、我が名字まゐらせて、和君等と、永く兄弟の契結ばんと思ふは如何にと云ひければ、高政兄弟、森と云ふ文字を改て、毛利とは書きたりけり、

〔明良洪範 十六〕小西飛驒守ハ、元内藤飛驒守ト云テ、太閤秀吉公ノ臣也、博學ナル故ニ、朝鮮陣ノ時、小西行長ニ副ヘテ遣ハサレ、文事ヲ司ドラシム、合戰大明ニ入テ和義トナル時、小西行長、己ガ名ヲ異國ヘ傳ヘン事ヲ量リ、内藤ヲ改メサセテ小西ト名乗ラセ、大明ヘ使者ニ立タリ、是ニ因テ小西ノ名大明迄トハロケリ、

〔鷲峯文集七十二行狀〕故江府令朝散大夫親衛校尉石谷叟行狀

叟姓藤原氏石谷諱貞清、○中其行晴十七世孫行清、產於西郷、○遠江地名乃改二階堂、稱西郷氏、○中略

今川義元、爲駿河國主、兵威壓遠州、政清屬其麾下、爲西郷十八士之長、戶塚氏、亦其一也、戶塚氏娘、奉

侍東照大神君、○德川家康誕台徳公、○德川秀忠時、號西郷女君、世稱寶臺院、是也、政清避憚之、改稱石谷氏、

〔伊豫御家系譜〕辰三郎、○吉田藩主伊達村豐子、中略